

■コメント

1. RSウイルス感染症

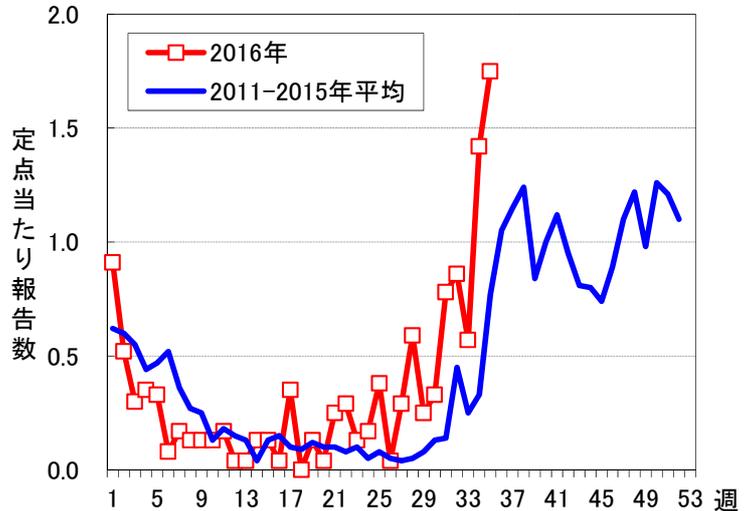
定点当たり1.75人と、前週と比べてやや増加しました。

RSウイルス感染症は、RSウイルスによって起きる急性呼吸器感染症です。年齢を問わず、生涯にわたって感染を繰り返しますが、生後数か月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、感染を避けるための注意が必要です。マスクの着用や咳エチケット、手洗いの励行など感染予防を心がけましょう。

2. 腸管出血性大腸菌感染症

1件の報告があり、今年の累計は10件となりました。例年、10月頃までは感染者が多い傾向にありますので、注意が必要です。(次頁参照)

RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	-		小児科	流行性耳下腺炎	9	0.38	0.48	
小児科	咽頭結膜熱	18	0.75	0.45	▲	眼科	RSウイルス感染症	42	1.75	0.77	◁
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	19	0.79	0.73	◁		急性出血性結膜炎	1	0.13	-	
	感染性胃腸炎	108	4.50	3.35	▶		流行性角結膜炎	3	0.38	1.13	
	水痘	12	0.50	0.43	◁	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	3	0.13	2.54			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.14	
	伝染性紅斑	12	0.50	0.17	◁		マイコプラズマ肺炎	4	0.57	0.31	
	突発性発しん	12	0.50	0.45			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.08			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	11	0.46	0.89							

急増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	◁	▷	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	6	109	男性(20歳代)・2人、男性(30歳代)・1人、女性(50歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、女性(90歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	10	女性(50歳代)・O血清群不明
5	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	18	女性(80歳代)

## ■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	報告週	広島市	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
報告数	第31週		-	11	30	100	12	4	17	11	-	19	17	18	-	6	-	-	7	-	-	-	-
	第32週		-	14	22	86	7	-	9	10	-	8	10	18	1	2	-	-	3	-	-	-	-
	第33週		-	17	28	68	5	4	4	6	1	3	6	13	-	3	-	-	9	-	-	-	-
	第34週		-	10	25	104	20	7	18	11	1	10	6	34	-	6	-	-	3	-	-	-	-
	第35週		-	18	19	108	12	3	12	12	1	11	9	42	1	3	-	1	4	-	-	-	-
定点当たり	第31週		-	0.48	1.30	4.35	0.52	0.17	0.74	0.48	-	0.83	0.74	0.78	-	0.75	-	-	1.00	-	-	-	-
	第32週		-	0.67	1.05	4.10	0.33	-	0.43	0.48	-	0.38	0.48	0.86	0.13	0.25	-	-	0.43	-	-	-	-
	第33週		-	0.74	1.22	2.96	0.22	0.17	0.17	0.26	0.04	0.13	0.26	0.57	-	0.38	-	-	1.29	-	-	-	-
	第34週		-	0.42	1.04	4.33	0.83	0.29	0.75	0.46	0.04	0.42	0.25	1.42	-	0.75	-	-	0.43	-	-	-	-
	第35週		-	0.75	0.79	4.50	0.50	0.13	0.50	0.50	0.04	0.46	0.38	1.75	0.13	0.38	-	0.14	0.57	-	-	-	-
全国	第33週		0.02	0.38	0.97	2.99	0.26	0.50	0.14	0.46	0.02	1.47	1.09	0.38	0.01	0.79	0.02	0.09	0.88	0.01	0.01	0.01	0.01
	第34週		0.03	0.36	1.12	3.50	0.25	0.62	0.17	0.54	0.02	1.86	1.06	0.52	0.01	0.95	0.02	0.07	0.86	0.02	0.02	-	-

## ■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(38.5) 上気道炎	4	男	2016/08/01	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスB5型
流行性角結膜炎	角結膜炎	30	男	2016/07/27	結膜擦過物	アデノウイルス64型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.4) 肺炎 細気管支炎	0	男	2016/07/11	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	肺炎	0	男	2016/07/18	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の消化器疾患	腸重積	0	男	2016/06/28	糞便	アデノウイルス31型
その他の消化器疾患	腸重積	1	男	2016/06/28	糞便	アデノウイルス31型
その他の消化器疾患	嘔吐 嘔き気 下痢	1	男	2016/07/07	糞便	コクサッキーウイルスB5型 ノロウイルスG2群 アデノウイルス6型
その他の疾患	発熱(39.6)	0	女	2016/07/22	咽頭拭い液	糞便 ハレコウイルス3型
その他の疾患	発熱(38.5)	0	不詳	2016/07/28	咽頭拭い液	糞便 ハレコウイルス3型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

## 【参考】腸管出血性大腸菌感染症(O157など)に注意しましょう。

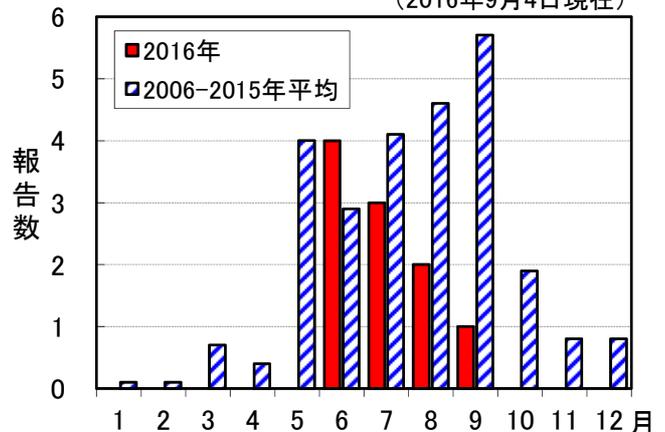
腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。特に乳幼児や高齢者は重症化しやすいので注意が必要です。

予防のために、次のことに特に注意しましょう。

- トイレの後、調理の前、食事の前には手洗いを励行しましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。また、肉・レバーなどは中心部まで十分加熱し、生食は控えましょう。
- オムツの取り扱いには十分注意しましょう。

## 腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数

(2016年9月4日現在)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail [ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp](mailto:ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp)

2016年第35週(8月29日～9月4日)